

証券コード:7272



ヤマハ発動機株式会社
第82期 中間報告書

2016年1月1日から2016年6月30日まで





株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
第82期第2四半期連結累計期間（以下、当上半期）の事業内容をご報告申し上げます。

当上半期の経済環境は、米国では、雇用・所得環境や個人消費が堅調に推移し、緩やかに景気が拡大しました。欧州では、個人消費を中心に内需の回復が続きましたが、英国の国民投票によるEU離脱決定を受け、先行き不透明な状況となっています。また、新興国ではインドネシアやブラジルなどで依然として景気低迷が続いています。日本では、政府による経済政策や日銀の金融緩和を背景に緩やかな回復傾向にあるものの、不安定な海外の動向も懸念される状況にあります。

このような経営環境の中、当社の先進国事業は、円高影響により前年同期比で減収・減益となりました。一方、新興国二輪車事業においては、インドネシアやブラジルでの販売台数減少により売上高は減少しましたが、営業利益は商品ミックス改善やプラットフォーム化推進などのコストダウン効果により現地通貨安影響を吸収し、前年並みとなりました。また、将来の成長に関わる開発費用を計画的に投入しました。以上の結果、当上半期は、実質的には増収増益ながら、為替の影響を受け、売上高は7,783億円（前年同期比504億円・6.1%減少）、営業利益は654億円（同80億円・10.9%減少）となりました。経常利益は553億円（同191億円・25.7%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は324億円（同197億円・37.8%減少）となりました。

なお、当上半期の為替換算レートは米ドル112円（同8円の円高）、ユーロ125円（同9円の円高）でした。

配当につきましては、「既存事業の稼ぐ力を高め、安定的財務基盤を維持・強化し、新しい成長投資・株主還元を増やす」ことを主眼に、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安として配当に充てる方針としております。

当期につきましては、円高影響があるものの、商品競争力の強化、プラットフォームコストダウンなど着実に稼ぐ力を高めていることから、1株当たりの年間配当金額予想は、配当性向34.9%の年間60円とさせていただきます、中間配当は30円とさせていただきます。

株主の皆様には、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年9月
代表取締役社長

柳 弘之

■ 第82期上半期経営総括

■ 先進国事業 収益性改善進むが、為替影響を受ける

- 二輪車：個性的なモデルブランドで商品ラインが充実・拡大し、米国での在庫削減や金融ビジネス拡大、各国での更なる構造改革に取り組みました。
- マリン：北米・欧州市場において大型エンジンの販売増加が続き、システムサプライヤー（エンジン＋周辺機器＋艇体戦略）へのビジネスモデルづくりを進めました。
- 特機：北米レクリエーション・オフハイウェイ・ビークル（ROV）市場で、多目的・リクレーション領域を固め、スポーツ領域へ新技術を投入、強化いたしました。

■ 新興国二輪車事業 収益性改善進み、規模減少・為替影響等を吸収する

- アセアン：好調なベトナム・フィリピン・タイ市場で販売が増加したものの、インドネシア市場で販売が減少しました。また、商品ミックス・プラットフォームモデル・グローバルモデル効果により、各市場で収益性の改善が続きました。
- インド：好調な市場で、都市部（スポーツ・スクーター領域）から、地方部（マス領域）への攻略を進め、販売が大幅に増加しました。北部＋南部生産体制の確立により、コストダウン・事業効率の改善を進めました。

■ 連結業績予想について

通期連結業績予想につきましては、新興国二輪車事業においては、ベトナム、フィリピン、台湾などの好調継続や、商品ミックス改善、コストダウンなどを通じて増益を見込んでいるものの、先進国事業では円高影響により減収・減益となることから、売上高・各利益とも当初の予想を下回る見通しです。

2016年12月期連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	換算レート(\$/€)	年間配当金
当初予想 2016年2月	17,000億円	1,200億円	1,250億円	800億円	\$117円/€127円	70円
修正予想 2016年8月	15,000億円	1,050億円	950億円	600億円	\$106円/€117円 (下期：\$100円/€110円)	60円
(参考)前年実績	*16,312億円	*1,303億円	1,252億円	600億円	\$121円/€134円	44円

※当期からの表示方法の変更に伴い、販売金融関係の収益及び費用の組替を行っています。

LMW*の第2弾 「TRICITY (トリシティ) 155」

“走りの楽しさ”と“燃費・環境性能”の両立を高次元で具現化した“BLUE CORE (ブルーコア)”エンジンを搭載しています。フロント二輪の三輪通勤車で排気量は155ccです。本モデルは当社の成長戦略のひとつ“ひろがるモビリティの世界”を推進するLMWの第2弾で、欧州を始め、日本やアジアなどでも販売を予定しているグローバルモデルです。

※LMW (Leaning Multi Wheel)：モーターサイクルのようにリーン (傾斜) して旋回する3輪以上の車両の総称。



ROVピュアスポーツモデル第2弾 「YXZ1000R SS」北米市場などで発売

昨年導入の「YXZ1000R」に続くピュアスポーツモデルです。

二輪車でも採用しているYCC-S (Yamaha Chip Controlled Shift) 技術でクラッチペダル操作を省略し、ハンドルを握ったまま変速操作が可能なパドルシフトチェンジシステムを備えています。



「NMAX (エヌマックス)」



欧州を中心に人気のスクーター“TMAX”や“XMAX”のスタイルを受け継いだシティ通勤車で、“BLUE CORE”エンジンを搭載しています。インドネシアのグループ会社で生産し、日本・欧州では125cc、アセアンでは155ccの排気量で、グローバルに展開しています。

マルチパーパスボート「SR-X 24」

フィッシング、クルージング、トーイングなど、さまざまなマリンプレイに対応するボートです。優れた走行性能と安定性を備え、オープンタイプの外観デザインを採用するとともに、最大10名分の座席スペースを設けることができ、大人数でのクルージングやマリンスポーツを可能としています。本モデルは、2016年9月15日より発売いたします。



電動アシスト自転車「PAS VIENTA5」 2016年モデル

スポーティかつ乗り降りしやすい軽量アルミフレームに、快適で爽快感ある走りを楽しめる内装5段変速や通勤や買い物などにも使いやすいサークル錠を採用するなど、スポーティさと実用性を両立させたスタイリッシュモデルです。

子育て世代のPAS利用は年々拡大していますが、近年ではその子供世代が中高生となり通学用にPASを購入するなど、シニア・ファミリー層から若者へとお客さまの広がりを見せています。



超高速モジュラー 「Z:TA-R (ジータール) YSM40R」



世界最速*1 20万CPH**2の生産性を誇る表面実装機（電子回路基板に電子部品を搭載する生産設備）で、“革新的な生産性”をコンセプトに開発した超高速モジュラーマウンターです。高速生産性ととも柔軟な生産形態対応力を併せ持つモデルです。

※1 2016年4月ヤマハ調べ

※2 CPH (Chip Per Hour) は単位時間当たりで実行可能な搭載部品の総数。各種条件での処理能力を示す。

鈴鹿8耐 決勝
YAMAHA FACTORY RACING TEAMが2年連続で優勝

2016年7月31日(日)、三重県鈴鹿市で、「コカ・コーラ ゼロ」鈴鹿8時間耐久ロードレース第39回大会の決勝が行われ、[YAMAHA FACTORY RACING TEAM]の中須賀克行選手、ボル・エスパルガロ選手、アレックス・ローズ選手が218周を走破し、2015年に続き2年連続の優勝を獲得しました。これで通算優勝回数は6回目、連覇は1987-1988年以来28年ぶりとなります。



ヤンマー株式会社と米国のROV事業で業務提携
アグリ・ユーティリティ市場へ新しい価値を提供する



当社とヤンマー株式会社(以下ヤンマー)は、米国におけるROV事業での業務提携について合意しました。両社は年内に契約締結を完了させ、2016年12月からヤマハROVのマルチパーパスモデル「VIKING(バイキング)」および「VIKING VI(バイキング シックス)」(いずれもヤマハ名)をヤンマーにOEM供給し、ヤンマーは米国での農家向け販売網を活用して2017年1月から同製品の販売を行います。

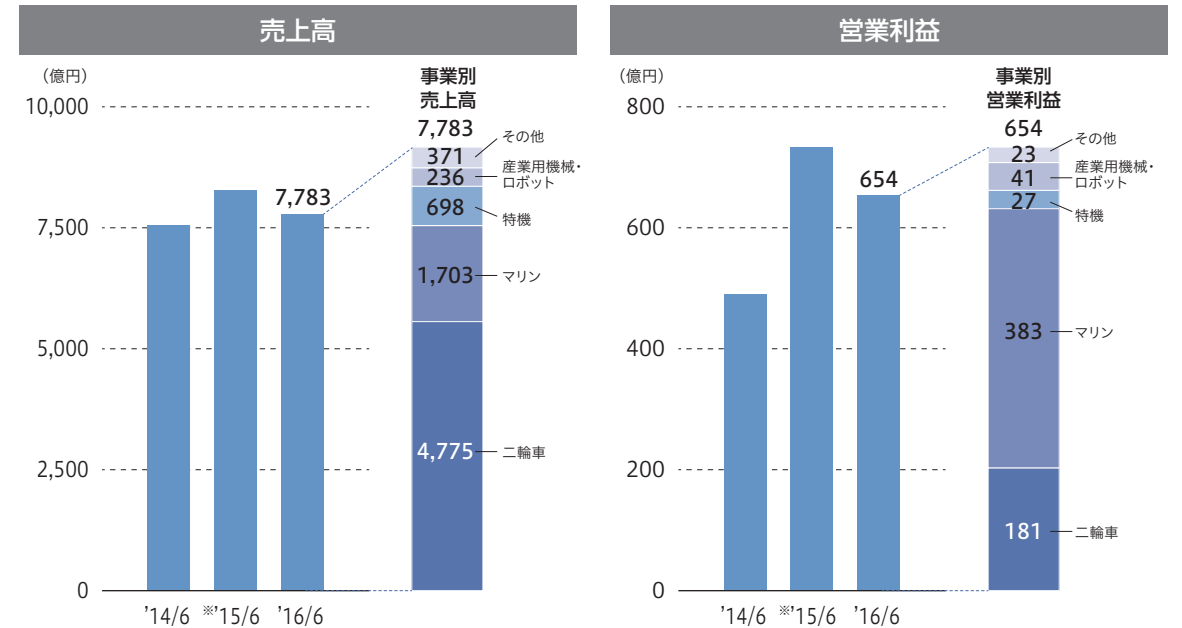
IRサイトをリニューアル

2016年7月、個人投資家の皆様にとってより分かりやすいコンテンツ構成に変更するとともに、スマートフォンでも閲覧しやすいサイトにリニューアルしました。「ヤマハ発動機の魅力」を新設する等掲載情報も拡充いたしました。



ヤマハ発動機 IR

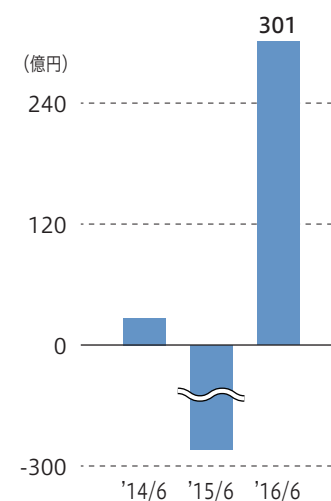
連結業績(第2四半期連結累計期間)の推移



※販売金融関係引替後

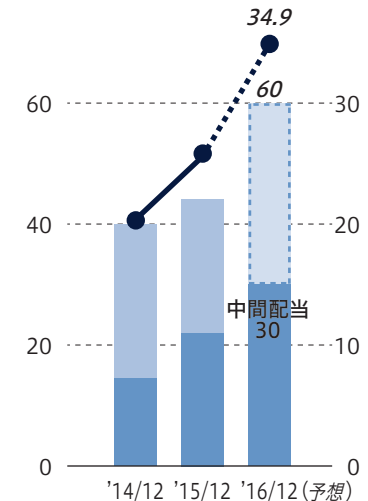
フリー・キャッシュ・フロー

(注)フリー・キャッシュ・フローは営業キャッシュ・フロー+投資キャッシュ・フローにより計算しています。



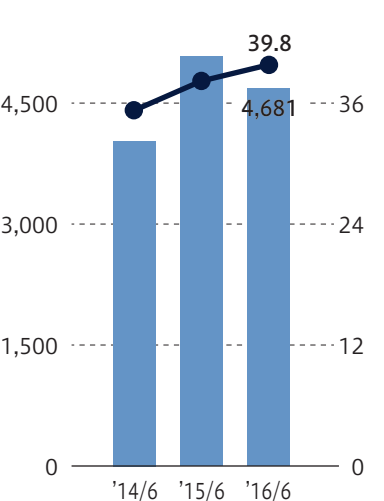
1株当たり配当金・配当性向(年間)

(円) 1株当たり配当金(左軸) (%) 配当性向(右軸)



自己資本・自己資本比率

(億円) 自己資本(左軸) (%) 自己資本比率(右軸)

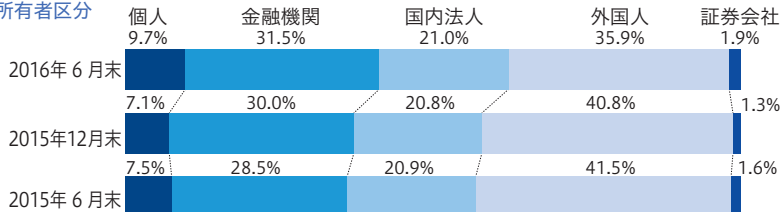


株式情報 (2016年6月30日現在)

発行可能株式総数 900,000,000株 発行済株式総数 349,914,284株

株主数 50,416名

所有者区分



(注)「個人」には自己株式が含まれています。

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ヤマハ株式会社	42,642	12.21
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	35,906	10.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	15,279	4.38
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	15,192	4.35
トヨタ自動車株式会社	12,500	3.58
株式会社みずほ銀行	11,824	3.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	9,382	2.69
三井物産株式会社	8,586	2.46
株式会社静岡銀行	6,813	1.95
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	3,907	1.12

(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しています。

役員 (2016年6月30日現在)

代表取締役社長	柳 弘 之
代表取締役	木村 隆 昭
取締役	篠崎 幸 造
取締役	秀島 信 也
取締役	滝沢 正 博
取締役	渡部 克 明
取締役	加藤 敏 純
取締役	小嶋 要 一郎
社外取締役	安達 保
社外取締役	中田 卓 也
社外取締役	新美 篤 志
常勤監査役	伊藤 宏
常勤監査役	廣 永 賢 二
社外監査役	遠藤 功
社外監査役	谷 津 朋 美

株主インフォメーション

事業年度	1月1日から12月31日まで
剰余金の配当の 基準日	期末配当：12月31日 中間配当：6月30日
定時株主総会	3月
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告によります。ただし、やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
各種お問合せ先 郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社全国本支店

お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等のお申出先
 - 証券会社に口座を開設されている株主様
お取引先の証券会社等にお申出ください。
 - 証券会社に口座がなく、特別口座に記録されている株主様
特別口座を開設している下記の口座管理機関にお申出ください。
口座管理機関：三井住友信託銀行株式会社
- 配当金のお受取りについて
配当金の支払期間が過ぎた場合でも、支払開始の日から3年以内はお受取りいただけます。株主名簿管理人にお申出ください。支払開始の日から3年を経過した場合、当社定款の規定によりお受取りいただけませんのでご注意ください。

ヤマハ発動機株式会社

〒438-8501 静岡県磐田市新井2500番地
電話 0538-37-0134

<http://global.yamaha-motor.com/jp/>

